

令和7年度 第2回川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会

日 時 令和8年3月23日（月）

午前10時～

会 場 川崎市役所本庁舎1603会議室

次 第

1 開会

2 館長挨拶

3 議事

- (1) 令和7年度事業報告及び評価について
- (2) 令和8年度事業計画について
- (3) 被災収蔵品の修復活動の状況について（報告）
- (4) その他

4 閉会

【資料】

- 資料1 令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告・評価について
- 資料2 令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告（今回報告・評価を行う事業）
- 資料3 令和8年度川崎市市民ミュージアム事業計画（案）
- 資料4 被災収蔵品の修復について

川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会委員名簿

【委員】

(五十音順)

氏名（敬称略）	職種等	備考
いなにわ さ わ こ 稲庭 彩和子	独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター 主任研究員	オンライン
なかむら わかな 中村 若菜	はなうた図工室 代表 一般社団法人日本臨床化粧療法士協会 理事	オンライン
ひらい ひろのり 平井 宏典	和光大学経済経営学部 教授	
ふじしま としえ 藤嶋 俊會	美術評論家 かわさき市美術展懇談会委員 川崎市文化芸術振興会議委員（親会議）	部会長

【事務局】

氏 名	担当等	備考
井上 強	市民ミュージアム館長	
古泉 智子	市民ミュージアム企画調整担当課長	
金子 和俊	市民ミュージアム収蔵品修復調整担当課長	
山崎 千加子	市民ミュージアム企画調整担当係長	
前崎 杏	市民ミュージアム企画調整	
佐藤 美子	市民ミュージアム学芸室長（学芸業務受託者）	
井上 寛之	市民文化振興室担当係長	親会議 事務局

令和 7 年度川崎市市民ミュージアム事業報告・評価について

1 趣旨

川崎市市民ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)の活動のさらなる充実を図るため、川崎市文化芸術振興会議の部会である市民ミュージアム部会において、令和 7 年度のミュージアム事業全般に対する評価を実施する。

2 評価の目的

- (1) ミュージアムの事業全般に対して、外部の学識経験者に客観的かつ多様な視点からの評価を受けることで、ミュージアムの課題を明確化し、運営のさらなる充実につなげる。
- (2) 評価を継続実施することで、中長期的なミュージアム運営の改善につなげていく。
- (3) ミュージアムの事業内容・評価を公表することにより、運営の透明性を高め、ミュージアム事業に対する市民の理解を得る。

3 評価者

川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアム部会委員

4 評価方法

令和 7 年度の実施事業(項目)について、次の(1)及び(2)の評価を実施する。

- (1) ミュージアムによる内部評価(自己点検)として、実施状況・成果等、課題・反省等
- (2) 市民ミュージアム部会委員による外部評価として、意見(評価できる点や課題等)及び評定

※評定 A:十分に達成
B:概ね達成
C:達成に至らず

令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告及び事業予定

目次

1	展覧会・上映会・教育普及（第2回評価対象）	
(1)	展覧会（企画展）	
	展覧会② ハマ川崎—海と陸の狭間をたどる—	1
	展覧会③ 英伸三 映像日月抄	4
	展覧会④ 袴田京太郎 隠された、	7
	展覧会⑤ オンライン 長田奈緒 風景としてのスティルライフ	9
	展覧会⑥ オンライン 多摩川を渡る 六郷橋と六郷渡船	12
	展覧会⑦ オンライン 線からみつける、かたちの再発見	15
	展覧会⑧ 第59回かわさき市美術展	16
(2)	上映会	
	上映会② 川崎の記録 —神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわり—	19
	上映会③ 奇妙キテレツクレイジー！発明家チャーリーのおかしな映画	21
(3)	教育普及	
	教育普及② 失われた風景よみがえる風景—多摩区の昭和—	23
	教育普及③ 史跡めぐり 宮前区初山地域と本遠寺	25
	教育普及④ 社会科教育推進事業	27
	教育普及⑤ 学びのサポートプログラム	28
(4)	その他 連携事業	
	連携事業① 宮前区つながる美術館	29
	連携事業② 紙くさぐさ	
2	資料等の調査、収集・受入、研究、修復に関する業務	30
3	広報に関する業務	
4	収蔵品の外部利用に関する業務	31
5	ミュージアムショップの運営に関する業務	

令和7年度川崎市市民ミュージアム事業報告及び事業予定

1 展覧会・上映会・教育普及事業（第2回評価対象）

（1）展覧会

【展覧会②】

事業名	ハマ川崎一海と陸の狭間をたどるー	
会 期	令和7年10月10日（金）～12月11日（木） 54日間 （月曜休館）	
会 場	東海道かわさき宿交流館	
コンセプト	近代以降、川崎市は臨海部の埋め立てが進み、海と接するハマ川崎に次々に工場が建設され、工業都市としての川崎を象徴する景観を形作ってきた。本展では、川崎市にとって重要な割には埋もれがちな海と陸との境界の変遷をたどり、どのように現在の姿になったのか近代都市川崎の来歴を明らかにし、現代の南部地域の生活基盤について紹介することを目的とする。 また、関連企画として講演会やアートコミュニケーション共創拠点事業と連携した Museum+205 を会場とする展示など各種イベントを実施する。	
ターゲット	市の歴史に興味がある人、高齢者層	
観覧料	無料	
入館者数	目標： 3,000 人	実績： 3,223 人
展示内容	■章構成 第1章 近代以前 第2章 明治大正時代 第3章 埋め立てと工業化 第4章 ハマ川崎の諸相 第5章 ハマ川崎への道 ■展示資料 （約50点 当館所蔵及び個人から借用） 多摩川河口域海岸町人普請絵図、川崎大師平間寺図絵ほか	
関連事業	■ オンライン史跡めぐり「探求ハマ川崎」 海と陸の狭間、「ハマ川崎」の痕跡をオンラインでめぐる。 配信期間：令和7年10月3日（金）～令和8年3月31日（火） 講 師：高嶋修一（青山学院大学経済学部教授）、鈴木勇一郎（当館学芸員） 観 覧 数：実績 445 PV ■ 講演会「ハマ川崎の来歴」 ハマ川崎の歴史について、展示資料を交え紹介。 開 催 日：令和7年10月25日（土）14:00 ～ 16:00 会 場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室 料 金：無料	

	講 師：鈴木勇一郎（当館学芸員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>28</u> 人（申込者数 <u>30</u> 人） ■ 講演会「ハマ川崎とツルミを走った貨車・電車」 かつてハマ川崎を走っていた、さまざまな鉄道や軌道の歴史について講演。 開 催 日：令和7年11月29日（土）14:00 ～ 16:00 会 場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室 料 金：無料 講 師：岡田直（元横浜都市発展記念館主任調査研究員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>42</u> 人（申込者数 <u>62</u> 人） ■ ① 講座「一家庭に眠るビデオテープやフィルムを捨てないで！ －視聴覚資料の取扱い－」 ② 上映会「川崎の記録－神奈川ニュースでみる、川崎のうつりかわり－」 家庭にあるビデオテープやフィルムなどの取り扱いなど視聴覚資料に関する講座を実施。また同日午後には、ハマ川崎に関連した記録映画や「神奈川ニュース」を学芸員が解説しながら、上映を行う。 開 催 日：令和7年12月6日（土）①10:30～12:00、②13:30～15:00 会 場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室 料 金：無料 講 師：①郷田真理子（当館学芸員）、②鈴木勇一郎（当館学芸員） 参加者数：①定員 <u>30</u> 人、実績 <u>13</u> 人 ②定員 <u>60</u> 人、実績 <u>35</u> 人 ■ 展示「写真の中のかわさき 第2弾 変わりゆくハマ川崎」 川崎市写真コンクールの作品から川崎臨海部の景観や生活に焦点を当てた写真を展示し、かつての臨海部の姿を紹介。 会 期：令和7年11月1日（土）～12月21日（日） 9時～21時 会 場：Museum*205（川崎市役所本庁舎復元棟2階） 観 覧 料：無料 主 催：川崎市、川崎市市民ミュージアム、 国立アトリサートセンター、東京藝術大学 入場者数：実績 <u>4,472</u> 人
主な広報	(1) ポスター・チラシ：公共施設大学等、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 新聞折込 (5) 川崎市 HP TOP バナー
効果測定	アンケート回収数 <u>479</u> 件（紙・web）

その他	共催：東海道かわさき宿交流館 図録：1,200 円（A4 判） 子どもリーフレット（A5 判/三つ折り）1,500 枚部
-----	--

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・これまであまり注目されることのなかった川崎臨海部の変遷を通時的にあきらかにすることができたという点で一定の意義があった。 ・アンケートから来場者の居住地を見ると、川崎区の在住者と東京都及び東京・神奈川以外の人 がほぼ同数であり、年齢層が高いことから東海道の街道歩きをする層に一定数見ていただい たと思われる。 ・4 割以上が市民ミュージアムを知らず、6 割以上が市民ミュージアムのアウトリーチによる活 動を知らなかったということからも、認知度向上という意味でも意義はあったと思われる。 ・2 回の講演会の参加者については、いずれも過去に市民ミュージアムの事業に参加したという 人が約 6 割で、市民ミュージアムの事業に継続して参加をしていただけているものと思われ る。 ・関連展示である「写真の中のかわさき」のアンケートからは、川崎の歴史についての興味が高 まり、懐かしさや新しい発見があった、など満足度の高い展示であったことがわかる。また、 写真をタッチ台に持っていきモニターで解説を見る展示の仕掛けや、アートコミュニケーター である「ことラー」が会期中の週末に会場にいて、来場者への声掛けやともに鑑賞を行った ことで、より魅力のある展示となったと思われる。	
＜課題・反省等＞	
・展示スペースがあまり広くなく、また東海道川崎宿交流館の展示から繋がったような展示風景 でもあったため、市民ミュージアムの展示の範囲について理解されづらい状況があった。 ・来場者数は目標を達成し、来場者の満足度は高かったが、展示点数や説明方法についての意見 もあり検討の必要があると思われる。	

＜外部評価＞意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	A
・アンケートの回答の「来場理由(複数回答)」について、「その他」が 27%もある。「その他」 の具体的内容を知ることによって広報にも生かせると考える。 ・展示場所が小さく、交流館と一体的であることから市民ミュージアムの展示であることが分か りづらかった件について、市民ミュージアムの展示と分かるように展示することで認知度も上 がっていきアンケートの活用方法も変わってくると思うので、このような点も踏まえて会場や 展示について検討してもらいたい。 ・図録の販売場所について、交流館での販売がイベント時のみで基本はオンライン販売というの は、オンラインに不慣れな方には買いづらい。	

【展覧会③】

事業名	英伸三 映像日月抄 そのときのあのこと あのときのそのひと	
会 期	令和7年11月8日（土）～12月21日（日） 38日間 （火曜休室）	
会 場	向ヶ丘遊園中和ビル2階（多摩区登戸2735）	
コンセプト	英伸三は1960年代から写真家として活動し、戦後の繁栄と発展の裏側に潜むものを丁寧に読み解くことで、諸問題が複雑に絡み合う日本社会の姿を浮き彫りにする作品を制作してきた。 本展では、長年にわたり地方の農村が抱える問題を記録した作品のほか、沖縄や九州から上京する少年少女の姿をとらえたシリーズ、視覚障がい者の教育現場と就職に迫った初期作品などその時代を特徴づける社会性の高いテーマの作品を通じ、半世紀を経てもなお、そこに写された人々の存在が今日の私たちの社会とどのように結びつきどのような意味を持つのか向き合うことを目的とする。	
ターゲット	美術・写真に興味がある人	
観覧料	無料	
入館者数	目標：4,000人	実績：1,183人
内容	■ 展示作品 約60点（収蔵作品14点、作家収蔵作品46点） ■ 展示構成 ① 沖縄や九州からの集団就職で状況する若者たちの姿を追った「集団疎開の若者」 ② 地方の農村が抱える問題を扱った「農村」 ③ 陸上自衛隊北富士演習場の基地と地元住民の闘争を追った「富士山」 ④ 町工場の鉄材をモチーフにした「鉄彩百景」 ⑤ 全国の農村を巡回する旅芸人「劇団ふるさときゃらばん」 ⑥ 横須賀の中学校の大合唱を撮影した「1700人の交響詩」 ⑦ 視覚障がい者の教育現場や就職の実態を追った「盲人ーその閉ざされた社会」	
関連事業	■ アーティストトーク「私と彼らの映像日月抄」 出品作家英伸三氏による作品紹介。 開 催 日：令和7年11月9日（日）15:00 ～ 16:00 会 場：向ヶ丘遊園中和ビル2階 料 金：無料 講 師：英 伸三 参加者数：実績28人 ■ 対話型鑑賞会「まなざしの泉じっくり見る、語る、聞く。」 写真に写された人々や景色についてグループで話す対話型鑑賞ワークショップ。 開 催 日：令和7年11月29日（土）17:00 ～ 19:00	

	会 場：向ヶ丘遊園中和ビル 2 階 料 金：無料 対 象：18 歳以上 講 師：小倉 快子 参加者数：定員 <u>16</u> 人、実績 <u>5</u> 人 ■ アートカードワークショップ 「SEA PHOTO CARD 何が見える？いろんな海を見つけてみよう！」 海の写真のアートカードを使用したワークショップ。 開 催 日：令和 7 年 11 月 30 日（日）14:00 ～ 16:00 会 場：多摩市民館実習室 料 金：無料 対 象：小学校 5 年生以上 講 師：小倉 快子 参加者数：定員 <u>24</u> 人、実績 <u>8</u> 人 ■ 講座「英伸三の写真 その表現の連なりと深淵」 学芸員による英伸三の作品と活動を紹介する講座 開 催 日：令和 7 年 12 月 5 日（金）14:00～15:30 会 場：宮前区役所向丘出張所 2 階会議室 料 金：無料 講 師：中野可南子（当館学芸員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>24</u> 人 ■ 学芸員による展示解説 開 催 日：令和 7 年 12 月 13 日（土）16:00～16:30 会 場：向ヶ丘遊園中和ビル 2 階 料 金：無料 講 師：中野可南子（当館学芸員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>5</u> 人
主な広報	(1) ポスター・チラシ：首都圏の美術館、博物館、ギャラリー、公共施設、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局、多摩区民際 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 新聞折込 (5) 川崎市 HP TOP バナー (6) 神奈川新聞「みんなの広場」
効果測定	アンケート回収数 展示： <u>193</u> 件（紙・web）
その他	協力：日鉄興和不動産株式会社 図録：1,980 円（B5 判 80 頁）

自己評価	
<実施状況・成果>	
・会場となった中和ビルは、通常は講演や打ち合わせスペースとして活用されている場所であり、展覧会をすることははじめての会場であったため、会場施工にはかなり創意工夫が必要となったが、モノクロームの写真作品が映える空間デザインを行い、来場者や他館の職員からも評価が高かった。 ・展示室内に映像や写真集を眺める机と椅子を多く設置したことで、時間をかけて展示をじっくりと鑑賞してもらうことができた。 ・展示としては1960～70年代の盲学校や農村、集団就職など社会の状況を映し出したものであり、多くの来場者に当時の社会問題等について考えていただける機会となったと思われる。	
<課題・反省等>	
・会場の都合上、日中に大型資材等の搬出入が難しく、公共交通機関の運行状況を鑑み夜間の作業が必要となった。今後の展示にあたっては、資材の大きさに合わせた搬出入の動線について十分に検討が必要だと思われる。 ・会場建物の掲示スペースにはポスター等での告知を行ったが、建物内の奥まった展示会場への動線案内が難しく、来場者は伸び悩んだ。来場者の満足度が高いだけに、今後告知方法について、更に検討が必要である。	

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B
・川崎市らしい内容は良いのだが、場所が奥まっいて分かりづらい、迷いやすいところがあった。 ・アンケートの「今回の展覧会を何で知ったか(複数回答)」について、こちらも「その他」が17%と割合が高い。あまりないことだと思う。 ・ミュージアムは立地が悪いところも多く、それを理解した上で行く人も多い。今回の場所は分かりづらくとも、駅から近い会場ではあるので、情報のリーチする場所によってはもっと呼べたのではと思う。50代以上が7割近く、SNSからの認知があまりない。若い世代に届いていなかったのではないかな。 ・良い感想をいただいているし、内容や満足度はよい。	

【展覧会④】

事業名	袴田京太郎 隠された、	
会 期	令和8年3月6日（金）～3月29日（日） 21日間 （月曜休室）※開催中	
会 場	川崎市役所本庁舎復元等 Museum+205	
コンセプト	被災後展示設備がなく実会場での収蔵作品の展示が難しい状況にあることから、市内在住の彫刻家、袴田京太郎氏の協力のもと、作品を展示し市民への美術鑑賞の場を創出することを目的とする。また、実会場での美術展であることを活用し、関連イベントとして視覚障害者との鑑賞事業を実施する。	
ターゲット	現代アート愛好者、市役所を訪問する市民等	
観覧料	無料	
入館者数	目標： 800 人	実績： <u>746</u> 人
展示内容	■展示作品 彫刻：袴田京太郎 4点以上	
関連事業	■ 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 開 催 日：令和8年3月22日（日）午前、午後の2回 会 場：川崎市役所本庁舎復元等 Museum+205 料 金：無料 講 師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 参加者数：定員 <u>14</u> 人（各回7人）、実績 <u>13</u> 人	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：美術系大学、美術館、カフェ、公共施設、川崎信用金庫、セレサ川崎、郵便局 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 川崎市 HP TOP バナー (5) 川崎市役所本庁舎 壁面バナー	
効果測定	アンケート回収数 展示： <u>6</u> 件（紙・web）、関連事業： <u>6</u> 件	
その他	記録集：800 円（A4 判）	

自己評価
<実施状況・成果> ・高さ3mのインパクトのある彫刻作品が会場外側の廊下からも見えることで、ふだん美術作品にそれほど親しみのない方でも、興味関心を寄せて来場されるケースもあったと思われ、より多くの市民らに本市在住の作家を知ってもらうきっかけとなったのではないだろうか。
<課題・反省等> ・Museum+205での初めての作家展であり、かつ監視付き展覧会となり、展示、運営等、様々なことを試行するものになった。また、本庁舎内の奥まった場所にあることから会場までの経路がわかりにくいため案内方法の検討や監視の控室の確保など、今後同会場の活用度を高めるためにも、クリアしていくことが必要と思われる。 ・本庁舎壁面へのバナー広告など会期開始時に間に合わなかった広報媒体もあり、来場者を増やすために各種周知方法については、検討が必要と思われる。

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B
・Museum+205で初めて美術作品の展示を行い、コンパクトであったが、個人的には良い展示だったと思う。市役所で現代アート、空間演出された展示を見ることがなかなかない。復元棟は歴史に関する展示もあるが、並びで見ると異質であったし、美術館で見るようなものが市役所の一室で見られるのは非常に良いこと。 ・市役所は来庁者が多い一方で、Museum+205に引き込む努力が足りていないように思う。サイネージ等は復元棟の雰囲気にも影響する点もあると思うが、奥まった場所に人を引き込む努力をして、ぜひ継続してほしい。矢印を貼る等。 ・新たなミュージアムが開館してもこのような展示は継続していただければ面白いと思う。	

【展覧会⑤】

事業名	オンライン 長田奈緒 風景としてのスティルライフ	
会 期	令和7年9月1日（月）～令和8年3月31日（火） 212日間 ※開催中	
会 場	市民ミュージアムのwebサイト上に開設した展示空間 「the 3rd Area of “C” —3つめのミュージアム—」にて公開	
コンセプト	川崎市出身の長田奈緒氏は、身近な物事の表層を版画の技術を用いて別の素材に刷り、それを空間に再構成することで作品を制作している。 本展では、長田氏の作品を鑑賞する機会を設け、市民をはじめ多くの方が川崎市ゆかりの作家による美術作品を鑑賞する場を創出する。 また、作品の画像、Museum+205における作品制作の様子、作家のインタビューを掲載するほか、長田氏の指導のもと、作品制作を行うワークショップを実施する。	
ターゲット	川崎市市民、現代美術に興味がある方	
視聴料	無料	
アクセス数	目標： 4,000PV	実績： 2,024 PV
展示内容	■ 展示構成 Chapter1 静物をみる Chapter2 痕跡をみる Chapter3 スティルライフをみつける 作家インタビュー ■ 展示資料（約100点） Carrier Bag (KOBAYA), as a Landscape ほか	
関連事業	■ 作品設置 作家による作品制作過程の写真・動画をオンライン展に掲載するとともに、作品とキャプションをMuseum+205の窓ガラスに設置。 期 間：令和7年7月28日（月）～10月18日（土） 会 場：本庁舎復元棟 Museum+205 ■ ワークショップ 「うつして、おいて、みる」 物をスキャナーで読み取り、会場周辺に作品を設置してみることで、作家が行っている制作の一部を体験する。 日 時：令和7年10月18日（土） 13:00～15:00 料 金：500円 会 場：本庁舎復元棟 Museum+205 ほか 講 師：長田奈緒 参加者数：定員 10 人、実績 10 人（申込者数 13 人）	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：美術系大学、美術予備校、絵画教室、美術館（全国）、ギャラリー、画材屋、川崎信用金庫、JA セレサかわさ	

	き、郵便局、公共施設等 (2) SNS : X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 川崎市 HP TOP バナー
効果測定	アンケート回収数 展示 <u>12 件</u> (web)

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・川崎ゆかりの若手作家を広く紹介する機会とすることができた。 ・会場にとらわれることがないため、より多くの作品を展示し紹介することができた。 ・気になった作品を拡大してみることができる、また、特に今回の作家は動きによって表現する作品もあったことから、オンライン展示ならではの利点を活用することができた。 ・オンライン展覧会であったことから、時間や場所を気にせず鑑賞してもらうことができた。 ・作品とあわせ作家のインタビュー映像を見ることで、より作品の理解を深めることができた。	
＜課題・反省等＞	
・当初予定の9月から2月へと図録の発行が大幅に遅れ会期末間近に販売開始となるなど、制作にあたっての作家やデザイン会社との調整について、課題が残った。 ・閲覧数が当初目標より少なく伸び悩んでおり、オンライン展ならではの広報の方法やイベントと関連づけた開催方法、企画展ページへの誘導方法など検討が必要だと思われる。	

＜外部評価＞意見（評価できる点や課題など）	
[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B
・必ずしも来場者の目標値に達していないからよくない、ということではないのは大前提だが、目標値の設定方法について高めに設定する目標がある一方、挑戦的なもの、達成が難しいと感じるものは目標値を低めにする等、設定の手法を変えることで引き立つものもあるのではないかな。 ・博物館法の改正に伴い、デジタル活用、デジタルアーカイブは新たなミュージアムが開館してもなくなるものではないと思う。オンライン分野を教育普及活動に転換するなど。オンライン展示は、1つの展示について1つの解説、のような形で終わりがちだが、ストーリー性を持たせ、リアルな展示のようにリッチな内容にするよう、今どこも試行錯誤しているところだと思う。今、館を持たない中で、今手さぐりでやっているものを、オンライン事業・デジタル事業に転換していけるか、ということは今チャレンジする機会であると思うので、挑戦していったほしい。 ・オンラインではあるが、このページを実際に見た方は色々な知見や感情を持てる内容になっていると思う。SNSについて、1000人以上フォロワーがいるのに投稿間隔が開いており、SNSの特性を生かした集客ができていないのでは、と思う。インスタならリール投稿、キャプションを充実させることが考えられる。Facebookやインスタグラムでも投稿の傾向は変わ	

る。若い人はFacebookを見ず、動画重視等傾向がある。展覧会の意義はオンラインでもリアルでもその場に来てもらうことだと思うが、アンケートでも来場者の年齢が高く、若い人が少ないことについても、SNSを活用した広報をすることで変わってくるのでは。PV数は職員だけで稼ぐこともできてしまうが、市民の方に見ていただくという本筋から離れてしまう。SNSの運用や広報、集客だけがミュージアムの本筋でないことは重々理解しているが、SNSからHPのオンライン展に流入する人の流れもあると思う。来年度以降、PV数だけでない指標についても検討できると良いかと思う。

【展覧会⑥】

事業名	オンライン 多摩川を渡る 六郷橋と六郷渡船	
会 期	令和7年12月12日（金）～ 令和8年3月31日（火） 110日間 ※開催中	
会 場	市民ミュージアムのwebサイト上に開設した展示空間 「the 3rd Area of “C” —3つめのミュージアム—」にて公開	
コンセプト	川崎を流れる多摩川は、川崎の土地を潤し、人々に親しまれてきた。その一方で氾濫をくり返す暴れ川でもあり、下流に架かる六郷橋は江戸時代に幾度となく流失した歴史がある。貞享5年（1688）以降は渡し船に切り替わるが、明治に入ると架橋の気運が高まり、約180年ぶりに六郷の渡しに橋が架かることになった。その時、渡船場はどうなったのか。本展では近世から近代における六郷橋と六郷渡船に焦点を当て、当時の人々の姿を紹介する。 また、川崎を流れる多摩川流域の古代について、地名や考古学、文献史学の研究者を招聘し連続講座を開講する。	
ターゲット	川崎、多摩川の歴史に興味がある人	
視聴料	無料	
アクセス数	目標：4,000PV	実績： <u>1,884</u> PV
展示内容	■展示資料（約50点） ・川崎宿森家文書（川崎市市民ミュージアム蔵） ・鈴木家文書、石川家文書（大田区立郷土博物館蔵） ほか ■章構成 プロローグ 多摩川と六郷大橋 第1章 六郷の渡し 第2章 佐内宿と川崎宿の人々 第3章 近代の六郷渡河 エピローグ 流されない橋	
関連事業	■連続講座「多摩河伯（たまがわ） 古代への眼差し —地名・墓・文献から考える—」 川崎を流れる多摩川流域の古代について、地名や考古学、文献史学から考察する連続講座。 講座1「交流の十字路 —多摩川の地域的な特性を交通と境界性から探る—」 日 時：令和8年1月17日（土） 13:30～15:30 講 師：谷口 榮（葛飾区文化的景観専門調査員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>46</u> 人（申込者数 55 人） 講座2「橘樹・荏原郡域の古代墓制について —横穴墓から火葬墓へ—」 日 時：令和8年1月24日（土） 10:00～12:00 講 師：松崎元樹（東京都埋蔵文化財センター調査研究員） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>39</u> 人（申込者数 49 人）	

	講座3「文献からみる多摩川下流域の世界」 日 時：令和8年1月24日(土) 13:30～15:30 講 師：堀川徹（星槎大学共生科学部准教授） 参加者数：定員 <u>40</u> 人、実績 <u>41</u> 人（申込者数 49 人） 【共通】 料 金：無料 会 場：川崎市大山街道ふるさと館 定 員：各回 40 名 ■ レクチャー&ワークショップ「わたる つくる たどる橋」 「多摩川をわたる」人々の姿や風景についてレクチャー後、木材や石を使い橋や川辺の情景のジオラマを作成。 日 時：令和8年2月8日(日) 13:00～15:00 →大雪のため令和8年3月21日(土)に延期 料 金：1 人 300 円 会 場：ニヶ領せせらぎ館 講 師：古畑健太郎・村尾理枝（ムラハタワークス）、 松本知佳（当館学芸員） 対 象：高校生以上 参加者数：定員 <u>15</u> 人、実績 <u>9</u> 人
主な広報	(1) ポスター・チラシ：市内及び対岸地域の施設、日本河川協会、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局、 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 川崎市 HP TOP バナー
効果測定	アンケート回収数 関連事業 <u>42</u> 数（紙）

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・修復及び応急処置済みの資料を中心にこれまで詳細を語られてこなかった六郷渡船の終焉及び近代六郷橋の始まりについて紹介することができた。 ・本展では、多摩川の対岸となる大田区立郷土博物館の収蔵資料を多数利用しており、今回の学芸員同氏の資料研究などの交流から、今後の連携した企画への可能性に繋がった。 ・関連企画であった全3回の連続講座はいずれも定員を上回る応募があり、多摩川や地域の歴史について、関心が高いことがわかった。また大多数の参加者からも学びに繋がったとの評価を受けることができた。	

<課題・反省等>

- ・歴史に詳しくない場合もわかりやすくなるよう平易な文書で資料説明等の記述を行ったが、文字量が多く読む展示となってしまった。今後はオンラインならではの見る楽しさを加味した掲載方法の検討が必要だと思われる。
- ・連続講座について、参加人数を増やしてほしい、希望の講座に当選できなかった等の意見もあり、定員についても今後検討が必要と思われる。

<外部評価>意見（評価できる点や課題など）

[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

B

【展覧会⑦】

事業名	オンライン 線からみつける、かたちの再発見 ー川崎市市民ミュージアム収蔵品展ー ※開催中	
会 期	令和 8 年 2 月 13 日（金）～ 次年度継続（令和 8 年度収蔵品展開催まで）	
会 場	市民ミュージアムの web サイト上に開設した展示空間 「the 3rd Area of “C” —3 つめのミュージアム—」にて公開	
コンセプト	初めての開催となるオンラインでの収蔵品展については、美術館・博物館の分野を横断した当館の収蔵品を 1 つのテーマの視点から新たな視点で鑑賞する場として、今後継続して開催していくものである。 今回のテーマは「線」とし、「空間」、「輪郭線」、「描写の線」の 3 つの視点から作品を見ていく。gif 画像や拡大・縮小機能を活用し、視覚に訴えかける方法をとることで、オンライン展示ならではの特色を活かした展示とするもの。	
ターゲット	当館の収蔵品に関心のある方、中高生以上の美術に関心のある方	
視聴料	無料	
アクセス数	目標：1,000PV（3 月末まで）	実績： <u> 46 </u> PV（3 月末まで）
展示内容	■展示資料（修復が完了した被災収蔵品 13 点） ・《川崎都市計量街路網図》 ・久保一雄《人情紙風船》 ほか ■章構成 第 1 章 線がつくる空間 第 2 章 かたちをつくる線 第 3 章 集合する線	
関連事業	ー	
主な広報	(1) SNS：X、Instagram、Facebook (2) 川崎市 HP TOP バナー	
効果測定	アンケート回収数 展示 <u> 4 </u> 件（web）	

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・展示資料の調整に時間を要したため、当初の計画より公開が1月ほど遅れることになったが、修復をした作品を紹介する場をつくることには意味があると思われる。	
＜課題・反省等＞	
・市民ミュージアムの修復を終えた収蔵品を紹介するという意味での展示であり、今回のものは年度を超えて次期収蔵品展の公開まで続けることとし、今後は常に何らかの収蔵品展を公開している状況になるようにしていく。	
＜外部評価＞意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B

【展覧会⑧】

事業名	第 59 回かわさき市美術展																															
会 期	入選作品展 令和 8 年 2 月 19 日（木）～2 月 25 日（木） 入賞作品展 令和 8 年 2 月 27 日（金）～3 月 7 日（土） 表彰式 令和 8 年 3 月 7 日（土）																															
会 場	ミューザ川崎シンフォニーホール 企画展示室																															
コンセプト	かわさき市美術展は、昭和 42 年（1967）から行われている、川崎市の芸術文化活動の振興を目的とした展覧会である。本展では、川崎市に在住、あるいは市内で制作活動をしている人々から作品を公募し、審査の上、入賞及び入選作品を展示することにより、市民が文化芸術活動に主体的に参加し、また鑑賞する機会を広く提供することを目的とする。また今回は第 60 回かわさき市美術展のプレ企画として、過去の最優秀賞受賞者のインタビュー動画の配信や、今後の応募対象者となっていく小学生を対象としたワークショップを開催する。																															
ターゲット	平面・彫刻・工芸・書・写真作品などに興味がある人。																															
観覧料	無料（応募は有料）																															
入館者数	目標： 1,800 人	実績： <u>1,507</u> 人																														
内 容	■部門 ①平面、②彫刻・立体造形、③工芸、④写真、⑤書、⑥中高生 の 6 部門 ■応募料 (1) 一 般：1 点 2,500 円、2 点 4,000 円 ※障害者手帳等を提示した応募者に対する減額を実施 (減額後の応募料 1 点 1,300 円、2 点 2,000 円) なお、審査については全応募作品同じ条件のもとで行い、展示の際も障害の有無についての記載等はしない。 (2) 中高生：無料 ■表彰 <table><tr><th>対象</th><th>賞</th><th>点数</th><th>授与品</th></tr><tr><td>全体</td><td>最優秀賞</td><td>6 部門を通じて 1 点</td><td>賞状、賞賜金 30 万円</td></tr><tr><td rowspan="3">一般</td><td>優秀賞</td><td>5 部門を通じて 4 点</td><td>賞状、賞賜金 10 万円</td></tr><tr><td>奨励賞</td><td>5 部門を通じて 8 点</td><td>賞状、賞賜金 1 万円</td></tr><tr><td>審査員特別賞</td><td>5 部門を通じて若干数</td><td>賞状</td></tr><tr><td rowspan="2">中高生</td><td>コミュゼ川崎大賞</td><td>1 点</td><td>賞状、副賞</td></tr><tr><td>優秀賞</td><td>5 点</td><td>賞状、副賞</td></tr><tr><td>入選者</td><td>市民賞（来場者投票）</td><td>6 部門それぞれ 1 点</td><td>賞状</td></tr></table> ※中高生副賞は図書カード			対象	賞	点数	授与品	全体	最優秀賞	6 部門を通じて 1 点	賞状、賞賜金 30 万円	一般	優秀賞	5 部門を通じて 4 点	賞状、賞賜金 10 万円	奨励賞	5 部門を通じて 8 点	賞状、賞賜金 1 万円	審査員特別賞	5 部門を通じて若干数	賞状	中高生	コミュゼ川崎大賞	1 点	賞状、副賞	優秀賞	5 点	賞状、副賞	入選者	市民賞（来場者投票）	6 部門それぞれ 1 点	賞状
対象	賞	点数	授与品																													
全体	最優秀賞	6 部門を通じて 1 点	賞状、賞賜金 30 万円																													
一般	優秀賞	5 部門を通じて 4 点	賞状、賞賜金 10 万円																													
	奨励賞	5 部門を通じて 8 点	賞状、賞賜金 1 万円																													
	審査員特別賞	5 部門を通じて若干数	賞状																													
中高生	コミュゼ川崎大賞	1 点	賞状、副賞																													
	優秀賞	5 点	賞状、副賞																													
入選者	市民賞（来場者投票）	6 部門それぞれ 1 点	賞状																													

	■ 応募・入選入賞作品数 <table><tr><td></td><td>応募者数</td><td>応募作品数</td><td>入選入賞者数</td><td>入選入賞作品数</td></tr><tr><td>第 56 回 (R4)</td><td>273</td><td>351</td><td>120</td><td>123</td></tr><tr><td>第 57 回 (R5)</td><td>273</td><td>367</td><td>122</td><td>124</td></tr><tr><td>第 58 回 (R6)</td><td>276</td><td>376</td><td>128</td><td>131</td></tr><tr><td>第 59 回 (R7)</td><td>229</td><td>325</td><td>127</td><td>132</td></tr></table>		応募者数	応募作品数	入選入賞者数	入選入賞作品数	第 56 回 (R4)	273	351	120	123	第 57 回 (R5)	273	367	122	124	第 58 回 (R6)	276	376	128	131	第 59 回 (R7)	229	325	127	132
	応募者数	応募作品数	入選入賞者数	入選入賞作品数																						
第 56 回 (R4)	273	351	120	123																						
第 57 回 (R5)	273	367	122	124																						
第 58 回 (R6)	276	376	128	131																						
第 59 回 (R7)	229	325	127	132																						
関連事業	■ 過去最優秀賞受賞者インタビュー動画の配信 過去の最優秀賞受賞者に日頃の制作活動やかわさき市美術展との関わり、受賞後のあゆみなどをインタビューした動画を次年度末までオンラインで配信。 出 演：渋谷武美（第 6 回）、井上麦（第 13 回）、鷹野健（第 37 回） 配信期間：令和 7 年 10 月 1 日（水）～令和 9 年 3 月 31 日（水） 閲 覧 数：実績 <u>1,125</u> PV ■ 肥沼守と描く動物フレスコ画ワークショップ 今後かわさき市美術展への応募対象者となる小学生に向けた、フレスコ画の技法を用いた平面作品制作のワークショップ。完成した作品は、第 59 回かわさき市美術展会場で講師の作品とあわせて展示。 日 時：令和 7 年 11 月 2 日（日） 13:00～16:00 場 所：カルッツかわさき 料 金：500 円 講 師：肥沼守（第 34 回最優秀賞受賞者） 対 象：小学生 参加者数：定員 <u>10</u> 人、実績 <u>9</u> 人																									
主な広報	(1) ポスター・チラシ：セブンイレブン、美術教室、工房、市内公共施設、昨年度応募者ほか (2) かわさき FM（ラジオ） (3) SNS：X、Instagram、Facebook (4) 教育だより、市政だよりほか (5) 川崎市 HP TOP バナー																									
効果測定	アンケート回収数 <u>336</u> 件（紙・web）、関連事業 <u>8</u> 件（紙）																									
その他	■かわさき市美術展懇談会の設置（学識経験者等から意見聴取） ■協賛：川崎信用金庫、セレサ川崎農業協同組合 ■後援：川崎市教育委員会、かわさき FM（79.1MHz） ■入選・入賞作品集：無料（B5 判 16 頁）																									

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・第 60 回への気運向上に向けた取組として実施した、過去の最優秀者のインタビュー動画の配信について、前回配信したセミナーの PV 数に比べ 30%ほど上昇しており、市美展を受賞後、長くアーティストとして活動続ける経過を紹介することができた。 ・関連企画として、今後かわさき市美術展の応募対象者となる小学生を対象としてフレスコ画のワークショップを開催したが、参加者のほとんどが初めて市民ミュージアムの活動イベントへの参加だった。また、制作した作品は入賞作品展で展示したことから、自分の作品と併せて市美術展の作品を見てもらう機会の創出になったと思われる。	
＜課題・反省等＞	
・前回に比べ 50 人ほど応募者が減少しており、特に中高生が約 30 人減員しており、学生の応募者増に向けた対策が必要と思われる。 ・入選、入賞作品の期間を分けての展示を行なっていることは引き続き課題となっており、次回第 60 回では会場を変えまとめて展示できるよう調整を行う。	
＜外部評価＞意見（評価できる点や課題など）	B
〔A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず〕	

(2) 上映会

【上映会②】

事業名	川崎の記録ー神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわりー	
会 期	多摩区編：令和7年11月16日（日）、ハマ川崎編：令和7年12月6日（土）	
会 場	多摩区編：多摩市民館、ハマ川崎編：東海道川崎宿交流館	
コンセプト	レスキュー活動を通してデジタル化された『神奈川ニュース』より、各区のニュースを選定し上映。関連の展示と期間をあわせて開催し、ゲストや講師と共に映像に記録された川崎市の移り変わりを辿り、市民の記憶を共有する機会を創出する。	
ターゲット	川崎の地域映像・歴史に興味のある人、映像当時を知る高齢者	
観覧料	無料	
来場者数	定員：多摩区編 60人 ハマ川崎編 60人	実績：多摩区編 84人 ハマ川崎編 35人
内 容	■多摩区編 （写真展「失われた風景よみがえる風景ー多摩区の昭和ー」関連事業） 神奈川県内の施策と事業をPRするために制作されたニュース映画「神奈川ニュース」から、多摩区に関連したニュースを中心に上映。写真展に協力いただいた稲田郷土史会の方々と当館学芸員による座談会も併せて実施。 上映作品：川崎の酒づくり（昭和54年）ほか 計17本 登壇：稲田郷土史会、松本知佳（当館学芸員） ■ハマ川崎編（企画展「ハマ川崎ー海と陸の狭間をたどるー」関連事業） 神奈川県内の施策と事業をPRするために制作されたニュース映画「神奈川ニュース」から、川崎区臨海部の開発による土地やくらしの変化を捉えたニュースを中心に上映。 上映作品：東扇島埋立工事記録ーその1ー（昭和50年）ほか 計8本 解説：鈴木勇一郎（当館学芸員）	
関連事業	（再掲） ■ー家庭に眠るビデオテープやフィルムを捨てないで！ー 視聴覚資料の取扱い講座 自宅に残るフィルムやテープの取扱いや保管方法、デジタル化について講義。 日時：各上映会同日 10:30～12:00 講師：郷田真理子（当館映画・映像スタッフ） 参加者数：定員 60人、実績 23人 ※2回合計	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：市内公共施設、 (2) SNS：X、Instagram、Facebook	
効果測定	アンケート回収数 【多摩区編】 62件（紙） 【ハマ川崎編】 31件（紙）	

その他	【多摩区編】 協力：稲田郷土史会 視聴覚資料取扱いハンドブックの配布（無料）
-----	---

自己評価	
<実施状況・成果>	
【多摩区編】 ・同会場で同じく市民ミュージアムが開催していた写真展の影響もあり、多摩区在住の人を中心に定員を大幅に超える参加者数となった。 ・上映後には、掲示をしていた地図などをもとに参加者同士で地域の思い出を語るなど、記憶の呼び戻しや古い写真などの保存への意識の醸成にも繋がったと思われる。 【川崎区編】 ・川崎港の埋め立て工事を軸に作品選定を行ったことから、地理的な変遷に興味をもっている人が多く川崎区以外からの参加者が6割以上だった。 ・内容と同時に16mmフィルムでの上映方法にも興味深く懐かしく感じてもらうことができた。	
<課題・反省等>	
・今回は、地元郷土史会と連携した上映会と、学芸員が解説を行う上映会というタイプの違うものを2区で実施したが、最終的に全7区で上映会を開催するにあたっては、それぞれの地区の環境や映像の内容に合わせて多くの人が興味深く感じ集客に繋がる企画を組み立てていく必要があると思われる。 ・上映により地域の人々の呼び起こした記憶をどのように集約し、市民ミュージアムの資料に繋げていくのか検討していく事が必要と思われる。	

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	A
--	---

【上映会③】

事業名	奇妙キテレツクレイジー！ 発明家チャーリーのおかしな映画	
会 期	令和8年3月14日（土）	
会 場	高津市民館	
コンセプト	子供たちや若い世代に映画の楽しさに触れてもらうため、時代を問わず笑って楽しめる、近年発見され修復されるまで日本では未公開であったコメディアン、チャーリー・パワーズのサイレント映画の作品を上映する。また、公開された100年前と同様に音楽の生伴奏をつけ、現在の映像とは違う世界を体感できる内容とする。 併せて、伴奏者の指導のもと、自分で映画に音をつける参加型の時間を設け、台詞のない映画の鑑賞体験をより楽しめるものとする。	
ターゲット	若年層、ファミリー層、映画ファン	
観覧料	一般：600 円、小中高生：400 円	
入館者数	定員：250 人	実績： 395 人
内 容	■ 上映作品（借用3作品） チャーリー・パワーズ 『たまご割れすぎ問題』（1926年） 『ほらふき倶楽部』（1926年） 『怪人現る』（1928年） ■ 参加型コーナー「サイレント映画に音をつけてみよう」 1～2分のサイレント映画に、伴奏者と来場者で音をつける。 ※参加者には楽器の持込を通知。 伴奏者：鈴木治行（作曲家）、柳下美恵（伴奏者）ほか	
関連事業	—	
主な広報	(1) ポスター・チラシ：市内公共施設、川崎信用金庫、JA セレサかわさき、郵便局、 (2) SNS：X、Instagram、Facebook (3) 市政だより (4) 川崎市 HP TOP バナー (5) ARIFT（旧ぱど）へのチラシ折込 (6) 学童保護者アプリ (7) 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム メールニュースほか	
効果測定	アンケート回収数 109 件（紙・web）	

自己評価
<実施状況・成果> ・今回は親子で楽しめる映画ということで初めての取組として学童保育で保護者向けツールとして使用されているアプリに広報記事を掲載した効果もあり、このアプリを見ての申込者のみで定員を上回る応募があった。また「映像のまち・かわさき」推進フォーラムにも後援をしていただくことで、メールニュースやHPでの告知など広報協力していただくことができた。 ・最終的に定員の倍以上の申込みがあり、座席を大幅に増やし多くの方に観覧いただけるよう対応した。 ・子どもたちの反応が非常によく、笑い声に包まれた楽しい上映会となった。休憩時間には、演奏者のまわりに子どもたちが集まり、楽器をさわらせてもらったり、質問したり興味津々の様子だった。 ・サイレント映画ではあったが、演奏者が色々な音を出すことで映画を盛り上げることを体験することで、100年前の映画館の風景を楽しんでもらえた。また、合間の映画に音をつけるコーナーでは、音の出る物を持っていない人でも映像に合わせて手をたたくなど多くの人に参加してもらうことができた。 ・映画館離れしているデジタル世代の子達にも、観る環境に足を運んでもらえれば、古い時代の映画を集中して十分に楽しんでもいただけることがわかった。今回のような親子向け上映を望む声も多くあったので、今後も若い世代が映画に足を運ぶ工夫をしていきたい。 <課題・反省等> ・今回は親子向けということもあり、学童保育保護者向けアプリを広報ツールとして活用し多くの申込みをいただいたが、子どもがメインターゲットでない場合などは使用することができないため、引き続き広報媒体について検討を続けていく必要があると思われる。 ・今回は応募者多数のため抽選となり、当選者にはハガキを送付したが、郵便料金の高騰や手間等を鑑み、今後メールでの結果通知のみに意向するなど連絡方法を検討していく必要があると思われる。

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	A
・学童利用者向けアプリという新たなチャネルを開拓し広報できた点は評価したい。 ・今回抽選となっており、潜在的需要を全て満たせるわけではない実情もある。親子向けイベントの需要があることが分かったと思うので、検討を続けていっていただきたい。 ・抽選結果の通知方法について、電子チケットを導入するとどのような方が申し込んでいるか分かるので、ミュージアムが行う他の事業への誘導もできる。郵送する手間を省くこともできる。 ・海外の館だと自前で電子チケットのシステムを持っていることも多い。人が多い場合は入場者数をコントロールする、ダイナミックプライシング：日曜や特定時間の金額を高くして、人を分散させることもできる。チケット購入者全員にアンケートを送付することができる。	

(3) 教育普及事業

【教育普及②】

事業名	失われた風景よみがえる風景—多摩区の昭和—
会 期	令和 7 年 11 月 11 日（火）～11 月 17 日（（月）） 8:30～17:00
会 場	多摩区総合庁舎 1 階アトリウム
コンセプト	川崎市にゆかりのある人々が撮影した写真・映像は、当時の景観や生活の諸相を伝える歴史資料である。本展では多摩区に焦点をあて、昭和 63 年に着手された土地区画整理事業により大きく姿を変え往時の風景が失われつつある登戸・向ヶ丘遊園駅を中心に過去の風景を遺し、伝えるために、市民ミュージアムの収蔵写真等のデジタルデータをパネルにして展示するもの。また、地域の稲田郷土史会の協力（写真・映像提供）により、昭和初期から昭和 30 年代の登戸・向ヶ丘遊園駅、旧津久井道の風景も取り上げ、その変化を振り返り、記憶を掘り起こしていくことを目的とする。
ターゲット	市民 多摩区の歴史に関心のある人
参加料	無料
内 容	■ 展示資料 約 30 点（収蔵品 20 点・借用品 10 点） 紀伊国屋（昭和 2 年）、向ヶ丘遊園駅（昭和 30 年頃）ほか ■ 展示構成 ① 失われた風景・よみがえる風景（展示趣旨） ② 多摩区航空写真（昭和 20 年代・現在） ③ 登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺の変遷 ④ 旧津久井道の記録
関連事業	川崎の記録—神奈川ニュースで見る、川崎のうつりかわり—【多摩区編】 日 時：令和 7 年 11 月 16 日（日） 13:30～15:00 ※上映会②に掲載
主な広報	(1) ポスター・チラシ：川崎信用金庫、郵便局、公共施設ほか (2) 新聞折り込み（多摩区）：読売新聞 (3) 川崎市 HP TOP バナー (4) SNS：X、Instagram、Facebook (5) 市政だよりほか
効果測定	アンケート回収数 34 件（紙・web）
その他	協力：稲田郷土史会

自己評価	
<実施状況・成果>	
・区役所アトリウムは展示環境や期間に制約があるものの、開催を知らず区役所や市民館に来館した人の目に留まり、展示準備中からオープンスペースであったため足を止め観覧する人が多く、短期間ではあったが常時多くの人が興味を持って見ている状況を生みだすことができた。 ・「川崎の記録－多摩区編」と連動企画にしたことから、パネル展示を見た人が上映会に参加するという流れもあり、写真と映像を併せて楽しんでもらうことができたと思われる。	
<課題・反省等>	
・写真や映像により地域の人々の呼び起こした記憶をどのように集約し、市民ミュージアムの資料に繋げていくのか、3年計画（今回は初年度）で取り組む中で形にしていきたい。	
<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	B

【教育普及③】

事業名	史跡めぐり 宮前区初山地域と本遠寺
会 期	①令和7年12月20日（土）9:30～12:00 ②令和8年1月11日（日）9:30～12:00
会 場	宮前区初山地域
コンセプト	例年開催している史跡めぐりについて、今回は宮前区の初山地域で開催する。 イヤホンガイドを使用した学芸員の解説のほか、行程の最後に訪れる本遠寺では、本堂にて御住職によるお寺の歴史や宮前区における江戸時代から戦後にかけての教育に関する講座を受けた後、境内の見学をする。本遠寺は、大正時代に市内初の私設図書館が開設されたことから、地域の学習の場でもあった。このような地域の史跡を巡り歴史を学ぶことで、史跡の保全活動や学芸員が史跡と関連させて解説を行う収蔵品への関心を高めるほか、当館の活動の周知を狙い実施するもの。
内 容	■料 金：500 円（イヤホンガイド代） ■主な行程 ・初山第二公園（集合） ・十王堂（閻魔堂） ・庚申塔 ・馬頭観音 ・本遠寺（解散） ■参加者数：定員 <u>30</u> 人（※各回 15 名）、実績 <u>24</u> 人
主な広報	(1) ポスター・チラシ：川崎信用金庫、郵便局、公共施設ほか (2) 新聞折り込み（宮前区）：読売新聞→事前に定員を満了したため中止 (3) SNS：X、Instagram、Facebook
効果測定	アンケート回収数 <u>22</u> 件（紙）
その他	協 力：本遠寺

自己評価	
＜実施状況・成果＞	
・今回はこれまで市民ミュージアムが活動を行っていない地域で実施することを念頭に、宮前区を選定し開催した。これにより、市全区での活動実績を得ることができた。 ・今回よりイヤホンガイド代として参加費を有料としたが、例年と同様応募は定員を超えたことから、参加費の有無に関わらず、参加意欲の高い企画だと思われる。 ・今回は本遠寺の協力を得て、史跡めぐりの中に座学を含めたが、地域の方の話を聞くことができる良い機会となった。また、地域との繋がりを深めるとともに、調査研究の題材や希望するイベントなど今後に関わる情報を得ることができた。 ・普段あまり気にせず通り過ぎていた地元の史跡について、今回のイベントを通じて歴史やその	

役割等を知ることができたという声が多かった。	
＜課題・反省等＞	
・今回は本遠寺での座学に時間をとったため、史跡めぐりの距離や時間が例年に比べ短くなった。史跡に関する説明がもっと聞きたいという声もあったことから、次回以降適正な解説時間や距離について検討していきたい。 ・寒い時期の開催で年齢層が高めということもあり、募集の段階では定員に達していたが当日体調不良等でキャンセルが多く発生した。開催時期については、引き続き検討していきたい。	
＜外部評価＞意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	A

【教育普及④】

事業名	社会科教育推進事業
会 期	令和 7 年 7 月～令和 8 年 3 月
会 場	申込のあった学校
コンセプト	市内の小学 4 年生を対象に、二ヶ領用水に関する体験学習や実物資料の見学を目的とした来館プログラム「社会科教育推進事業」を長年実施してきたが、被災による市民ミュージアムの休館後、出張授業・資料貸出・教材送付の 3 種類の事業として継続実施するもの。
内 容	■出張授業：当館職員が学校に出向き、校内で授業を実施。 ■資料貸出：クワ、蛇籠といった出張授業時に使用している資料の貸出。 ■教材送付：当館で作成した二ヶ領用水の歴史等をまとめた冊子を希望校に配布。(B5/12 頁) 【参考】令和 6 年度実績 出張授業 49 校、資料貸出 5 校、教材送付 69 校 ■実績：出張授業 <u>44</u> 校、資料貸出 <u>7</u> 校、教材送付 <u>16</u> 校 合計 <u>67</u> 校
効果測定	アンケート回収数 ・出張授業 <u>27</u> 件（紙・web） ・資料貸出、教材送付 <u>17</u> 件（紙・web）

自己評価	
<実施状況・成果>	
・昨年とほぼ同数の学校に対応しており、アンケートからも継続して実施希望がある事業ということがわかった。 ・出張授業について、並行して実施している「学びのサポートプログラム」とあわせ、週 2 校までとしているため、日程調整がうまくいかず希望はあったが実施できない学校もあった。	
<課題・反省等>	
・年々変わる学習指導要領や求められる授業（学習）内容を常にリサーチし、より社会科学習に沿ったプログラムの内容を検討していく必要がある。	

<外部評価>意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	A
・出張授業の数など見ても、この事業は十分に実施できているように思う。	

【教育普及⑤】

事業名	学びのサポートプログラム-学校及びその他団体向け事業- (旧スクールプログラム ※R7 より変更)
会 期	申込に応じて実施
会 場	申込のあった学校
コンセプト	学校との連携事業として、学芸スタッフが出張し、勾玉作り等の体験や職業紹介等のレクチャー等を実施し、歴史や美術作品、あるいは博物館や美術館そのものに関する知識を得る場や体験する機会を創出するもの。
内 容	■主なメニュー ・勾玉づくり ・ゾートロープ（回転のぞき絵） ・職業紹介（学芸員の仕事についてのミニ講演・レクチャー）等 【参考】令和6年度実績（6校） 勾玉づくり2校、ゾートロープ1校、職業紹介1校、その他2校 ■実績 ・勾玉づくり <u> 6 </u> 団体 <u> 256 </u> 人 ・火おこし <u> 1 </u> 団体 <u> 11 </u> 人 ・地域の歴史 <u> 2 </u> 団体 <u> 165 </u> 人 ・職業紹介 <u> 1 </u> 団体 <u> 32 </u> 人 合計 <u> 10 </u> 団体 <u> 464 </u> 人
効果測定	アンケート回収数 <u> 6 </u> 団体（紙・web）

自己評価	
<実施状況・成果>	
・今年度応募のあった団体は、市からの寺子屋事業の案内及び年度当初に学校に配布した案内資料を見ての応募であり、ペーパーレス化は進んでいるものの、ホームページを見て知ったという回答はなく、引き続き紙での周知が有効だったと思われる。 ・昨年度製作した教育普及の活動冊子を案内資料とあわせて年度当初に配布したことで、実施内容の理解が深まり新規団体（5団体）の応募に繋がる効果もあったと思われる。	
<課題・反省等>	
・被災から6年が経過し、市民ミュージアムの存在を知らない子どもが増えており、教育事業を通して館について周知できる場は貴重であるため引き続き告知方法を検討していきたい。 ・学校対応はマンパワーの面から出張授業（二ヶ領用水の授業）を含めて週に2度までというルールで実施しているため、今後も同じペースで実施すると出張授業を断るケースが増えてくることから、開催時期や日程調整の方法など全体の運営方法の検討も必要と思われる。 ・大人の団体向けに事業を行うことも踏まえて今年度から事業名を変更したことから、今後、大人の団体向けへの告知をどのようにしていくかも検討する必要がある。	
<外部評価>意見（評価できる点や課題など）	
[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
A	

【その他 連携事業①】

事業名	宮前区役所つながる美術館関連企画 ミュゼみやまえ
会 期	令和7年8月27日（水）～9月10日（水） 15日間
会 場	宮前区役所2階 レストランみやまえ
コンセプト	宮前区が「令和7年度市民提案型総合情報発信事業」として区役所を美術館とする「つながるみんなのアート展」の関連企画として、市民ミュージアムの収蔵品画像を活用したミニ展示を行なうもの。
内 容	■展示内容 ミニ展示：グラフィック分野アール・ヌーヴォーポスター（複製） 14点 塗り絵コーナー：北斎漫画と鳥山石燕の版本塗り絵 6点 館の紹介コーナー：まちなかミュージアム、書籍「水害と博物館」の紹介
効果測定	－

【その他 連携事業②】

事業名	紙くさぐさ
会 期	令和8年1月10日（土）～2月12日（木） 33日間
会 場	高津図書館 1階 展示コーナー
コンセプト	図書館のなかで、おそらく最もたくさんあるもの、紙。本を借りて読んでいるとき、じっと見て、指で触れているはずなのに、紙を意識することはあまりない。ここでは、そのような紙に眼を向け、その奥深さに迫る。同時に、当館の被災収蔵品レスキューにも触れ、そこで使われている紙素材について紹介する。R6年度オンライン展「紙すく人」をベースに構成するが、書籍（文字等が印刷された紙）がたくさんある図書館ならではの展示とするもの。
内 容	・日本古来の紙：和紙の原料と製法をパネルや実物等で解説 ・もの書きたちの紙：図書館の蔵書から、紙について書かれたテキストと掲載本の実物を展示（司書さんが勧める本の紹介も検討） ・浮世絵の紙：木版に使われる奉書の実物展示＋収蔵品の浮世絵をパネル展示 ・レスキュー、修復の紙：レスキュー活動で使用している紙素材のものを、使用シーンとともに紹介 ・コラム：生誕100年のかこさとしの絵本「よわいかみ つよいかたち」、カミスク（川崎市で活動する紙関係の団体）紹介 ◆実績：2,800人
効果測定	アンケート回収数 <u>36</u> 件（紙・web）
その他	共催：高津図書館 協力：一般社団法人カミスク

2 資料等の調査、収集・受入、研究、修復に関する業務

(1) 調査、収集・受入

市民ミュージアム資料収集方針等に基づき、収集対象となる資料に関する情報を収集し、所有者等の譲渡又は寄贈等の意向の確認等、収集に関して必要となる事項について調査・折衝を実施。また、川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会において、専門家の意見聴取を経て、市が収集をするか否かを決定し、収集を決定した資料等については、受入れを行うとともに台帳へ登載するもの。

◆ R7 収集実績 : 市ゆかりの作家作品 (3 点 : 大矢紀氏 2 点寄贈、山口幸二氏 1 点購入)

(2) 研究

収集・収蔵した資料等について、展覧会や教育普及事業等を行うため研究等を実施し、紀要の発行を行った。

(3) 修復

資料等について、今後の展覧会や上映会で活用及び適切な保管のため、修復等を実施。

3 広報に関する業務

(1) 各種広報媒体の作成と活用

各種展覧会、上映会、教育普及事業等について、チラシの作成・配布、市民ミュージアムのホームページや SNS (X、Facebook、Instagram) を通じた情報発信のほか、市政だより、市及び区等の管理するデジタルサイネージ等市広報媒体の記事調整・データ作成を実施。

【掲載実績】

内訳	新聞	雑誌・ 情報誌	テレビ・ ラジオ	WEB	サイネージ ほか
展覧会	12	10	4	206	1
上映会	2	4	0	50	0
教育普及	0	0	0	19	0
その他	0	1	1	3	0

(2) SNS 等投稿実績 (R7 年 4 月～R8 年 2 月末時点)

内訳	X	Facebook	Instagram	YouTube
フォロワー数	5,509	2,163	1,376	635
投稿数	109	104	104	0

(3) 市民ミュージアムホームページの管理運営

市民ミュージアムのホームページについて、随時最新情報へと更新を行うなど管理運営を実施。

【市民ミュージアム web 閲覧実績】

参考 R6 : 308,210 PV 、 R7 : 279,934PV

(4) メディアリレーション

新聞・テレビ等での報道を通じ、展覧会やワークショップなど市民ミュージアムの活動を多くの人に理解を深めてもらうため、随時報道発表資料を作成するとともに、各事業内容に適合した車内広告や雑誌掲載など広報を実施。また、取材対応や番組制作協力を行った。

(5) 川崎市市民ミュージアム年報及び紀要の作成

ア 年報

市民ミュージアムの事業実績のまとめとして、年度ごとに作成。

イ 紀要

学芸員達の研究の成果を各実施事業に活用できるよう毎年紀要を作成。

4 収蔵品の外部利用に関する業務

(1) 貸出し

市民ミュージアムに収蔵または、寄託を受けている収蔵品等について、他の博物館等への貸出しを行うもの。

貸出しにあたっては、「川崎市市民ミュージアム資料貸出し要綱」の規定に基づき、収蔵品の保存状態や貸出先の環境条件等を勘案した後、申込者との調整、著作権等権利関係及び関係書類の確認を行った上で、収蔵品等の館外貸出しを実施するもの。

(2) 特別利用

「川崎市市民ミュージアム観覧料及び特別利用等に関する要綱」の規定に基づき、市民ミュージアムに収蔵または寄託を受けている収蔵品等について、申請に応じ模写、模造、拓本、撮影、原版使用に供するもの。

5 ミュージアムショップの運営に関する業務

川崎市市民ミュージアムが作成した刊行物等（図録、オリジナルグッズ等）をオンラインのミュージアムショップで販売。

なお、ショップの運営及び頒布代金の収納事務については、学芸業務受託者に委託。

令和 8 年度 川崎市市民ミュージアム事業計画（案）

川崎市市民ミュージアムは令和 8 年度も引き続き、「IN ACTION」を全体テーマに、市内の他施設及びオンラインで展開する展示業務、教育普及事業等の博物館・美術館活動を企画・実施するほか、諸事業を推進する。併せて、多様な主体との連携を進め、市民が文化芸術に触れる機会を増やしていくとともに、新たなミュージアム開館に向けた機運醸成や認知度向上を目指していく。

1 展覧会・上映会

次の予定に基づき、展覧会及び上映会を市内の他施設において実施予定。

展覧会又は上映会名(仮称)	会 期	会 場
稲毛の観音所 ー川崎のお寺今昔ー	令和 8 年 4 月～ 6 月	大山街道ふるさと館
昔の暮らし	令和 8 年 6 月～ 8 月	大山街道ふるさと館
グラフィックポスター	令和 8 年 1 0 月～ 1 2 月	向ヶ丘遊園中和ビル
あんなかたちこんなかたち ちょうこくを楽しもう！	令和 8 年 8 月	ミューザ川崎 シンフォニーホール
かわさき市美術展	令和 9 年 2 月～ 3 月	アートガーデンかわさき ミューザ川崎 シンフォニーホール
映画上映会（全 3 種）	①令和 8 年 8 月～ 9 月 ②令和 8 年 9 月 5 日 ③令和 8 年 9 月～ 1 1 月	①市内施設 ②新百合 2 1 ホール ③市内施設
「the 3rd Area of “C”」 （全 3 本）	令和 8 年 1 1 月～ 令和 9 年 3 月	オンライン

2 教育普及事業

ファミリー層、高齢者、障害のある方など、様々な方のニーズに沿ったワークショップを展開するほか、毎年実施している史跡巡りや市民ミュージアム講座、展覧会の関連企画としての講座・ワークショップを実施。併せて、小学 4 年生を対象とする社会科教育推進事業や一般団体も対象に広げた学びのサポートプログラムを実施。

3 資料等の調査、収集・受入、研究、修復に関する業務

(1) 調査、収集・受入

市民ミュージアム資料収集方針等に基づき、収集対象となる資料に関する情報を収

集し、所有者等の譲渡又は寄贈等の意向の確認等、収集に関して必要となる事項について調査・折衝を実施。また、川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会において、専門家の意見聴取を経て、市が収集をするか否かを決定し、収集を決定した資料等については、受入れを行うとともに台帳へ登載するもの。

(2) 研究

収集・収蔵した資料等について、展覧会や教育普及事業等を行うため、研究等を行う。

(3) 修復

資料等について、今後の展覧会や上映会で活用及び適切な保管のため、修復等を行う。

4 広報に関する業務

(1) 各種広報媒体の作成と活用

各種展覧会、上映会、教育普及事業等について、チラシの作成・配布、市民ミュージアムのホームページやSNS（X、Facebook、Instagram）を通じた情報発信のほか、市政だより、市及び区等の管理するデジタルサイネージ等市広報媒体の記事調整・データ作成を実施。また、コミュニケーション誌「IN ACTION」を年2回発行予定。

(2) 市民ミュージアムホームページの管理運営

市民ミュージアムのホームページについて、随時最新情報へと更新を行うなど管理運営を実施。

(3) メディアリレーション

新聞・テレビ等での報道を通じ、展覧会やワークショップなど市民ミュージアムの活動を多くの人に理解を深めてもらうため、随時報道発表資料を作成するとともに、各事業内容に適合した車内広告や雑誌掲載など広報を実施。また、取材対応や番組制作協力を行う。

(4) 川崎市市民ミュージアム年報及び紀要の作成

ア 年報

市民ミュージアムの事業実績のまとめとして、令和8年度版を作成。

イ 紀要

学芸員達の研究の成果を各実施事業に活用できるよう紀要を作成。

5 収蔵品の外部利用に関する業務

(1) 貸出し

市民ミュージアムに収蔵または、寄託を受けている収蔵品等について、他の博物館等への貸出しを行うもの。

貸出しにあたっては、「川崎市市民ミュージアム資料貸出し要綱」の規定に基づ

き、収蔵品の保存状態や貸出先の環境条件等を勘案した後、申込者との調整、著作権等権利関係及び関係書類の確認を行った上で、収蔵品等の館外貸出しを実施するもの。

(2) 特別利用

「川崎市市民ミュージアム観覧料及び特別利用等に関する要綱」の規定に基づき、市民ミュージアムに収蔵または寄託を受けている収蔵品等について、申請に応じ模写、模造、拓本、撮影、原版使用に供するもの。

6 ミュージアムショップの運営に関する業務

川崎市市民ミュージアムが作成した刊行物等（図録、オリジナルグッズ等）をオンラインのミュージアムショップで販売。

なお、ショップの運営及び頒布代金の収納事務については、学芸業務受託者に委託。

7 令和8年度 市民ミュージアム事業費 予算（市民ミュージアム執行分）

【支 出】

項 目	予算額
市民ミュージアム収蔵品修復事業費 (収蔵品修復委託料等)	230, 107 千円
市民ミュージアム運営事業費 (学芸業務委託料、収蔵品管理業務委託料等)	446, 623 千円
市民ミュージアム施設管理経費 (仮設施設の土地借上料、電気料、水道料等)	36, 679 千円
市民ミュージアム施設整備事業費 (仮設施設における緊急対応経費)	3, 960 千円
市民ミュージアム施設事業費 (仮設施設リース料等)	35, 060 千円
合 計	752, 429 千円

【収 入】

項 目	予算額
財産収入（特別利用、自動販売機設置場所の貸付）	366 千円
寄付金	917 千円
諸収入（かわさき市美術展応募料、上映会入場料、ワークショップ受講費、ミュージアムショップ等）	1, 875 千円
合 計	3, 158 千円

令和 7 年 4 月 1 日現在

歴史分野

川崎市域史に関わる歴史資料

- 市重要歴史記念物
 - ・青銅製鰐口 ・後北条氏虎の印判状
 - ・関東下知状 ・古筆手鑑「披香殿」
- 古文書や記録、古地図、絵図、記録写真、高札、関札、看板等



県指定文化財「鰐口(春日神社)」

レスキュー状況

- 収蔵庫より搬出した紙資料の冷凍保管を実施（劣化の進行を抑えるため）
- 市民ミュージアム館内（令和 5 年10月に麻生区内の仮施設へ移転）にて、文化遺産防災ネットワーク推進会議等の御支援をいただきながら、真空凍結乾燥機又は自然乾燥を経て、冊や状等の資料を一枚づつ解体の上、洗浄、乾燥、燻蒸等の応急処置を実施中
- 紙資料については、絵図、地図、瓦版、浮世絵等を、物資料については、高札、関札等を中心に、専門家に依頼して修復を実施中
- 市重要歴史記念物 古筆手鑑「披香殿」については、複数年契約にて修復を実施中

民俗分野

川崎市域に伝えられてきた民俗資料

- 市重要郷土資料
 - ・大師河原の漁撈具 ・獅子頭
- 生活道具、農業用具、漁業用具、年中行事用具、電化製品等



「河童図」

レスキュー状況

- 紙資料については、歴史資料同様、市民ミュージアム館内にて応急処置を実施しているが、資料内容又は資料の状態によっては、専門家へ修復を依頼している。
- 用具関係の物資料については、約13,000件を応急処置済であり、資料を特定するための同定作業の実施や、資料内容又は資料の状態によっては、専門家に依頼して修復を実施中
- 大師河原の漁撈具は、専門家に依頼して修復を実施中
- カシマニンギョウ等の藁人形については、他の収蔵品に対して保存上の危険を生じさせる場合があるため33点を処分した。

考古分野

市内から出土・採集された土器、石器等の埋蔵文化財

- 市重要歴史記念物
 - ・下原遺跡縄文時代後・晩期出土品(縄文時代)
 - ・生田古墓群生田8601番地古墓出土火葬骨蔵器(奈良時代)
- その他出土品
 - ・石器、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、銅鏡・鉄刀などの金属製品 等



「縄文土器(下原遺跡出土)」

レスキュー状況

- 令和 5 年 9 月に洗浄・乾燥等の応急処置及び旧施設からの搬出を完了させ、現在は市内複数施設に収蔵資料を仮保管している。
- 現在は、修復専門業者による指定文化財・金属製品の修復を進めるとともに、今後の活用に伴う台帳の詳細化を含めた資料の再整理を行っている。

美術文芸分野

川崎市ゆかりの作家の作品等

- ・安田靫彦、大矢紀、結城天童等の日本画
- ・田中岑等の洋画家、斎藤寿一等の版画家による作品
- ・渡辺豊重（絵画、版画、彫刻等）の作品
- ・濱田庄司等の陶芸作品、圓鋳勝三等の彫刻作品
- ・岡本かの子や佐藤惣之助等の文芸作品 など



渡辺豊重「虚形」

レスキュー状況

- 順次、専門家へ修復を依頼している。
- 安田靫彦の本画「草薙の剣」等や画稿、濱田庄司の陶芸作品を修復済
- 大矢紀作品13点、結城天童作品6点を修復済、順次、修復を実施中
- 田中岑作品29点、斎藤寿一作品84点、渡辺豊重作品50点を修復済、順次、修復を実施中
- まどみちお「絵日記」850点を修復済、順次、修復を実施中
- 文芸作品の一部を修復済、順次、修復を実施中
- 画面剥落や固着等、被災状況が酷かった油彩画21点及び書籍等1,823点を処分

市民ミュージアムの主な収蔵品及びレスキューの状況

令和7年4月1日現在

グラフィック分野

西洋、日本の芸術的ポスター

- 19世紀ポスター（アール・ヌーヴォー）
- 20世紀ポスター（アール・デコ）
- プロパガンダポスター
- 現代版画
- 日本の現代ポスター



19世紀ポスター(ロートレック作品)

レスキュー状況

- アール・ヌーヴォーポスターについては、概ね修復済
- アール・デコポスター183点、プロパガンダポスター93点を修復済、順次、修復を実施中
- 現代版画5点、日本の現代ポスター2点を修復済
- 現代版画約400点、日本の現代ポスター約1600点等は応急処置済
- 画面剥落、固着等により被災状況が酷く、複製印刷物などで当館以外で同一のものの存在が確認できる、又は同一のものが購入等により入手可能な、日本の現代ポスター5,235点、オリンピックポスター116点、外国ポスター1,197点、マガジンカバー17点を処分。

写真分野

国内外の芸術的な写真、写真集等

- 19世紀作品（鶏卵紙等）
- 20世紀作品（ゼラチン・シルバー・プリント等）
- 現代日本の100人の写真家コレクション
- 木村伊兵衛写真賞受賞作品
- 雑誌「アサヒグラフ」、「LIFE」など



19世紀写真(ダゲレオタイプ、鶏卵紙)

レスキュー状況

- 貴重な19世紀作品及び20世紀作品について、順次、専門家へ修復を依頼している。（E.D.バルデウス、ウジェーヌ・アジェ、T.H.オサリヴァン、ルイス・ハイン等）
- 木村伊兵衛写真賞受賞作品及び現代日本の100人の写真家コレクションについては、作家等との調整を踏まえ、順次、修復を依頼している。
- 「アサヒグラフ」、「LIFE」等の雑誌等約6,300点のほか、被災状況が酷く、当館以外で同一のものの存在が確認できる、又は同一のものが購入等により入手可能な、19世紀写真約280点、20世紀写真約4,430点を処分。

漫画分野

日本漫画史を形成できる作品や漫画原画、刊行物等の資料、日本との相互影響関係にある外国漫画雑誌資料等

- 岡本一平、穴戸左行、清水崑、楠勝平、横山裕一等の漫画原画
- 江戸・明治期の歴史的な刊行物（ジャパンパンチ等）
- 海外雑誌
- 近現代の漫画雑誌
- その他作家関係資料等



ジョルジュ・ビゴー「京都のビゴー」

レスキュー状況

- 被災直後に冷凍した、岡本一平、穴戸左行、清水崑、楠勝平等の漫画原画については、順次専門家へ修復を依頼し、現時点で3,757点が修復済となっている。
- ジャパンパンチ等、江戸・明治期の歴史的な刊行物については、現時点で20点が修復済であり順次、修復を実施している。
- 「週刊少年ジャンプ」等の漫画雑誌、漫画の単行本のうち、被災状況が酷く、複製印刷物などで当館以外で同一のものの存在が確認できる、又は同一のものが購入等により入手可能なものについて、約52,000点を処分。

映画・映像分野

映画・映像作品、ニュース映画、ビデオアート作品等や作品に関する直筆デザインスケッチ、脚本原稿等

- 川崎市政ニュース映画
- 原版（「セレベス」、「河 あゝの裏切りが重く」等）
- 川崎市ゆかりの作品（「川崎の水」、実相寺昭雄作品等）
- アルゴ・ピクチャーズ作品、独立プロ作品
- 1980年以後のドラマ脚本等



久保一雄「人情紙風船」セットデザイン画

レスキュー状況

- 原版を中心に、順次、専門家による修復を実施
- 「セレベス 海軍報道班員の報告」、「河 あゝの裏切りが重く」、「神奈川ニュース」「二十世紀製を作る」、「滾々として尽きず 高橋圭三版」、「喪の仕事」等を修復済
- 久保一雄のスケッチについて、2,816点を修復済
- 井手雅人、神代辰巳等の関連紙資料については応急処置済
- 学校教育用教材映像等のフィルム等については、被災状況が酷く、当館以外で同一のものの存在が確認できる、又は同一のものが購入等により入手可能なことから、映画分野で957点、映像分野で1,129点を処分。

収蔵品のレスキュー状況（令和7年4月1日現在）

分野	収蔵品 総数	収蔵品内訳		被災収蔵 品総数 ※1	レスキュー状況		
		作品・アー カイブズ 資料・図書	寄託品		修復済 ※2	修復中 ※3	処分
歴史	42,377	39,696	2,681	29,423	380	117	0
民俗	13,981	13,951	30	13,738	198	29	33
考古	72,072	72,053	19	71,678	70,247	0	0
美術文芸	18,124	18,111	13	9,004	2,821	220	1,844
グラフィック	11,037	11,037	0	11,012	540	137	6,566
写真	33,029	33,029	0	21,309	1,451	28	11,015
漫画	74,503	74,503	0	73,679	3,903	1	52,003
映画	13,301	12,808	493	13,301	2,862	1	957
映像	27,238	27,238	0	1,520	0	0	1,129
合計	305,662	302,426	3,236	244,664	82,402	533	73,547

※1 レスキュー作業の状況等により、収蔵品数が増減する場合がある。

※2 修復不要を含む。

※3 修復前準備中を含む。